

成果指標				
成果指標	地域活動支援センターへ通所している人数			
指標設定の考え方	障がい者等が通所することにより、社会参加や自立へとつながることから、一人でも多く利用を促進していく必要があるため、指標と考えた。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	目標28年度
目標	15	17	17	17
実績	17	21	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	利用者が4人増えたものの、固定化は否めない。限られた予算、人員の中で、どのように改革していくかが問われる。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	障がい者の生活リズムに合わせて、気軽に訪問でき、話し相手となることができる場所であり、特に就労系福祉サービスにつながらない精神疾患のある方に利用していただきたいサービスである。しかしながら、地理的条件から、中山には、障害福祉サービス通所事業所の整備が見込まれないため、地域活動支援センターがすべての機能を担っていることもあり、利用者の固定化、高齢化、重症化など問題が表面化している。指定管理者である運営法人の、人的・金銭的支援が無ければ継続が難しくなることが推測できるので、今後指定管理料の範囲で運営できるように、思い切った改革が求められる。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価 (行政評価委員会)	
-------------------	--

経営者会議の最終判断

事業の方向性	現状のまま継続する。
意見、課題	